電子地形図25000

測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 903

# 京都東南部

## 活構造凡例

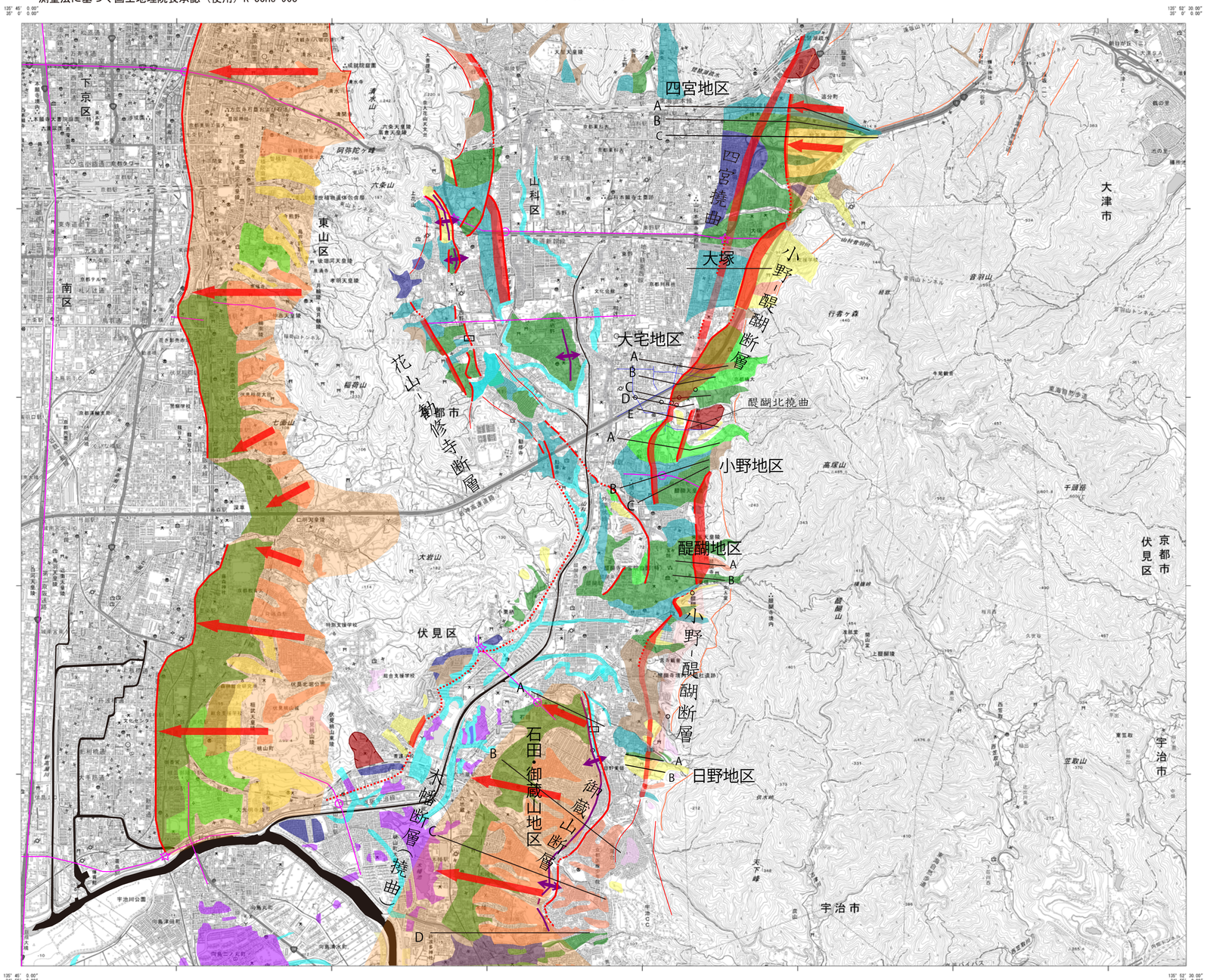
- 活断層（地表に破断変形生じる可能性大）
- 伏在活断層（変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大）
- 推定活断層（第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり）
- 活背斜（地表に背斜（引張）変形生じる可能性大）
- 活向斜（地表に向斜（圧縮）変形生じる可能性大）
- 活撓曲（幅数10m～数100mの傾動が生じる可能性大）
- 伏在活撓曲（変位基準なし・幅数10m～数100mの傾動が生じる可能性大）
- 推定活撓曲（第四紀後期の活動未確定・幅数10～数100mの傾動が生じる可能性あり）
- 傾動帯（幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大）
- 傾動方向（矢の方向に傾き下がる）
- リニアメント・古期断層（地表に断層変位をもたらす可能性低い）

## 調査項目凡例

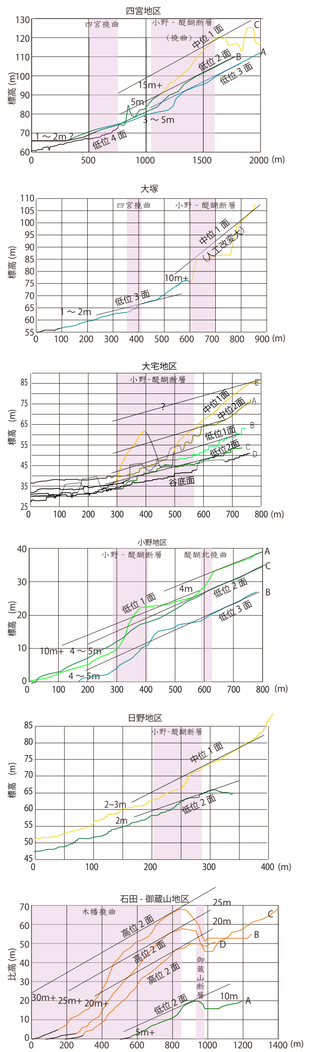
- 地形断面位置
- 反射法地震探査測線
  - ☆：断層
  - ○：傾斜変換点
- トレンチ調査地点
- 調査ボーリング地点重要露頭

## 地形凡例

- 1930～40年代の水部（ため池など：その後埋め立てられたもの・現水部を含む）
- 旧河道（埋め立てられた川の跡）
- 自然堤防および破堤地形（堆積）（洪水時に土砂が堆積した微高地）
- 天井川（歴史時代に形成された周囲より河床が高い川）
- 緩斜面（土石流堆積物などが堆積して作られた斜面）
- 低位5面（完新世後期＝数千年前以降にできた段丘）
- 低位4面（完新世＝約1万年前以降にできた段丘）
- 低位3面（更新性末期＝約1.5万年前ごろにできた段丘）
- 低位2面（後期更新世後期＝約2万年前ごろにできた段丘）
- 低位１面（後期更新世中期＝約4万年前ごろにできた段丘）
- 中位2面（後期更新世前期＝約8万年前ごろにできた段丘）
- 中位1面（後期更新世初頭＝約10～12万年前にできた段丘）
- 高位2面（中期更新世後期＝約20万年前ごろにできた段丘）
- 高位1面（中期更新世・数10万年前にできた段丘）
- 地すべり地形（過去の地すべりによって作られた斜面）



1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は東経135°
2. 図郭に付した短線は経緯度第1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7°30′
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式




令和3年 9月 3日　調製

電子地形図25000